令和５年度
長野県病害虫防除研修会を開催しました

「農作物の病害虫防除」に際しては、その対象となる病害虫の生態的な特徴に基づき、効果的な防除手段を講じていくことが必要です。

近年ではその講ずるべき防除手段についても、「可能な限り労力を要せず、可能な限り安価なもの」など、生産者にとっても、持続的な農業の実現に向けても、より最適なものが強く望まれる状況となっています。

また、農作物の生産現場をめぐる環境も大きく変化しており、特に夏季の高温化は、我々がこれまで経験したこともないような状態になりつつあります。

このような状況から、静岡県からお二人の講師をお招きして、温暖地域で既に問題となっている野菜病害虫防除の最前線の情報をご紹介いただきました。

なお、「新型コロナウイルス」の感染拡大により、令和２年度は開催を見送り、令和３、４年度はWEB という形でしたが、本年度は４年ぶりに対面形式で約 100 名の関係者に参加いただき開催することができました。

写真１　弊所、鈴木所長の開会あいさつ

写真２　熱心に聞き入る参加者

【研修題名】

ア　夏季高温であった令和５年の野菜巡回調査結果の概要について

長野県病害虫防除所　小林　長生（東北信）　嵯峨　裕之（中南信）

【内容】夏季高温が顕著であった令和５年度の野菜巡回調査の概要について、過去の結果と比較しながら紹介しました。

イ　夏季高温化がレタスの細菌性病害の発生に及ぼす影響について

長野県野菜花き試験場　環境部　技師　藤　結宇　氏

【内容】高温傾向によりレタスの細菌性病害が多発するのではないか？危惧されるところですが、栽培環境調節ハウス等による影響評価試験での結果の概要について紹介していただきました。

ウ　連続降雨にも耐え水田転換畑に適応できる「平高うねマルチ栽培」の特性について

長野県農政部農業技術課　専門技術員　鮎澤　純子　氏

【内容】現地ではゲリラ豪雨による圃場滞水で野菜類の根部障害（湿害、土壌病害）がみられ、特に水田転換畑で多いことから近年新たに開発された本栽培技術について紹介いただきました。

エ　静岡県におけるネギ属黒腐菌核病の防除研究について

静岡県農業環境技術研究所　伊代住　浩幸　氏

【内容】近年の春季温暖傾向により、葉ネギでは一部作期の前進化が図られるなど低温性病害の黒腐菌核病が本県でも確認されつつあります。そこで、本病防除対策の備えとするため防除研究の最新の知見を紹介いただきました。

オ　天敵昆虫利用を主体としたウイルス媒介虫の防除研究について

静岡県西部農林事務所　生産振興課　斉藤　千温　氏

【内容】薬剤抵抗性が発達した難防除な微小害虫に対し、天敵昆虫利用を中心とした防除体系の普及により、害虫だけでなくウイルス性病害も効果的に防除できる最新の技術を紹介いただきました。

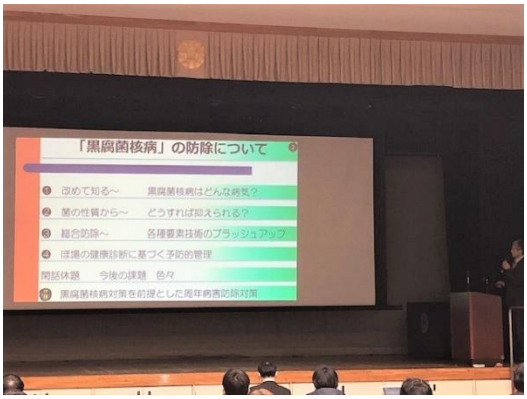

写真３ 伊代住氏によるネギ属黒腐菌核病の紹介

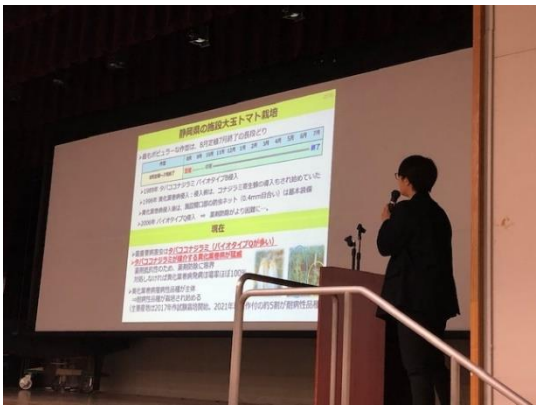

写真４ 斉藤氏による天敵昆虫利用法の紹介